

里山環境の土壌深度ごとの土壌細菌群集の解析

1200249 藤原 夕莉

Analysis of soil microbial community structure varied with depth in woodland  
near a village, satoyama

Yuri Fujihara

高知工科大学は、『里山での暮らしが我が国の将来にわたる心豊かな生き方の一つの理想となるような地域社会のモデル構築』を目指し 2007 年より香美キャンパスから約 5km の高知県香美市佐岡地区を佐岡プロジェクトとして借り入れ、その中で豊かな自然要素を資源として有効活用することを中心に里山工学に取り組んでいる。この里山は農地だけでなく山林を含む変化に富んだ中山間林地フィールドで、里山工学に適している。里山環境および生態系はその生産性や環境保全とも深く関与するものであり里山環境の中で微生物は物質循環および動植物をつなぐネットワーク形成に重要な役割を果たしている。すなわち、森林、竹林、農地などの利用形態や地形や微小気象は微生物群集構造に影響していると考えられる。しかし、微生物と生態系との緻密な関係はまだ詳しく分かっていない。本研究では土地利用や植生との関連が深いと考えられている微生物群集の理解を目的とし、このフィールドで取得された土壌コアから深度別に DNA を抽出、16s rDNA の配列によってバクテリア群の同定を行い土壌細菌群集構造を解析した。